

胸部画像精度管理研究会に参加して 結核予防会のブランド力

神奈川県結核予防会

健診技術局次長 荻原 昭義



胸部画像精度管理研究会が令和5年12月21日（木）結核予防会結核研究所で開催されました。前年は新型コロナウイルス感染症のオミクロン株がまん延する中で、参加者を制限して行いましたが、令和5年度も本部と支部の医師と診療放射線技師協議会幹事のみで、全国から集まった225画像の評価を行いました。

評価方法

まずは参加者を6班に分け、予め用意されたサンプル画像を用いて「目合わせ評価」を行います。これは各班の評価基準のバラツキを修正するためで、自班が下した評価が他班に比べて甘いのか厳しいのかを把握してから、本番の画像評価に取り掛かります。

画像評価は濃度・コントラスト・鮮鋭度・粒状性・姿勢・性腺防護・装置の整合マーカーの7つのファクターを考査して、読影に適した画像であるか否かを、A・B・C上・C中・C下・D・Eの7段階のランクに区分します。低いランクの画像はどうすれば点数が上がるのか、同席しているメーカーアドバイザーの見解も参考にして、改善点をコメントします。

最初に1次評価、シャッフルして別班が2次評価を行い、1次と2次でA・AやB・B等の同じ評価ランクのものは評価確定となり、A・BやC上・B等評価ランクに違いが出たものは、総括や再判定班で最終評価を確定します。

評価結果

225画像の評価結果は以下の通りです。

- ・A評価55画像24.4%
- ・B評価97画像43.1%
- ・C上評価64画像28.4%
- ・C中評価9画像4.0%

評価ランクの内訳は、ここ数年の平均値に比して多少の変動が認められましたが、全体的にはほぼ例年通りでした。評価結果は年明けに各施設へ送られます。C評価の画像はどこを改善すればBに上がるのか、それぞれの施設で検証を行い、良質な画像のイメージが持てれば、来年以降全体の底上げに繋がるでしょう。

平尾先生のメッセージ

最後の総括の中で、精度管理対策部会の平尾部会長が、有所見の画像を数点掲示されました。肺尖部の鎖骨重なり部分、縦隔部分、心臓の陰影部分、肺周辺の肋骨重なり部分、横隔膜の直下等々、どの画像にも病変があるのですが、障害陰影と重なって見えにくく、先に解答を聞かなければ見逃しそうな画像ばかりです。

平尾先生は「こういう部位に出来た病変を拾い上げることが結核予防会のブランド力だ」という想いを込めて、私たち診療放射線技師に向けてメッセージを発信されたように感じました。私たちもそのメッセージに応えるべく、肺野のすべてがしっかりと描出されている良質な画像を提供するために、日々精度の向上に努めていかなければなりません。

そして来年こそは、この研究会が結核予防会の次世代を担う若い人たちの人材育成の場になるよう、広く参加者の門戸を開いて開催されることを切に願います。🍷



画像評価を行っているところ